
IS fusion

雪羅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

IS fusion

【Zコード】

Z6679Y

【作者名】

雪羅

【あらすじ】

タイトル通り、本編とオリジナルの融合。オリ主 久遠祐希が加わったISの世界・・・彼女もまたある意味の天才だった。IS学園に入学し波乱万丈の物語が始まる！

なおこの作品えらく頻繁に他作品を引用します。その都度助言しますがご理解を。

設定・注意（前書き）

テスト前だが気にしない。
というよりは気にもしない。
テストは金曜日

設定・注意

こんばんわ。今から投稿していくのはエスケインフィーツト・ストラトスへを元にしたオリジナリストを加えた小説です。小説自体初めて書くので多目に見てくださいれば有り難いです。なお、文中のキャラや機体、世界設定について自分が愛読しているお気に入り小説を参考...もとい引用させていただきます。その際は前書き、後書きで備考として入れていきます。

そんなこんなで始めたいと思いますのでよろしくお願ひします。

あ、あと自分は高一ですのでテスト等で不安定となります...それでも読んでくだされば光栄です。
目標は、

「自分のお気に入り小説の融合」です。

それでは次回からよろしくお願ひします。

一話 興味の対象（前書き）

勉強するやる気がない
テストはできないひとがすればいいといつも思う

一話 興味の対象

私は今歩いている。
何処へつて？

友人の家にです。私の最初の友達、篠ノ之箒と遊ぶ約束をして今向かっている。

私は毎回おもうのだけど、箒の姉さん、束さんはいつも無表情・冷徹：
今となつてはあまり気にしなくなつたけど、それがただ単に興味の対象じゃないからだそつだ。

それはさておき到着！呼び鈴ならして少し待つ。そして、

「祐希早かつたな、あがつていいよつ！」

箒ちゃん登場！！

「うん！ありがとつ！お邪魔しまーす。」

私は久遠祐希^{くひやうき}8歳。小2。

まあ、自己紹介はおいといで、靴を脱いで上がる。

2階に向かっていると色々とプリントを持った束さん登場。
多分今日も同じなんだろうなあと思いつつ、

「こんにちはっ！」

と挨拶すれば

「…………」「こんにちは。」

やつぱりそつかあ。変わらないや。束さんの腕から一枚抜けて落ちた。
祐希はそれを拾い渡そうとしたが…
その内容を見て全てが分かつてしまつた。

そして、

「Iの図は何かのグラフ…？ネットワークのよつな…。でも所どI
るによつて途切れている…。自己進化の過程？」

周りからみればただのグラフ…その証拠に筹は頭の上に？を浮かべ
ている。

だが、そのつぶやきに束は見逃さなかつた。

「…？…君、分かるの？」

「えつ、…まあ、なんとなく？なんかひらめいたから、つこ」

束さんの気迫に押された！

祐希に軽いダメージ？

「じゃあじやあ、Iはどうかな？」

束さんの気迫上昇中？

「これは、言語認識プログラムが神経接続？その先は…脳？…わつき
のネットワークのようなものでの通信かな？」

「凄いよ君、君も天才だあ？ 稽の名前はつー」

束さんは以前の無関心な対応が一変した。
当然その対応ができる訳なく、

「ゆ、祐希。久遠祐希です…。」

少し噛んでしまった。

「祐希ちゃんかあ……うん……ゆーちゃんに決定！　いつでも来ていいよっ。」

愛称が決まった！興味の対象となつた瞬間だった。

「姉さん、……祐希いつも遊びに来てるけど。」

「えつ、そーなの。まあ、いつか」

「「はあーっ……」」

落胆する筈と祐希だつた。

まだこの時2人はこのさきの未来が予想できなかつた。

一話 横山の対象（後書き）

今回は和利夫さんのを引用しました。

オリ主と衆さんを結ぶのはこれしかないとと思いました。

ここから数話は和利夫さんのを引用していきたいと思します。

一話 助手依頼（前書き）

テスト前なのに執筆する . . .
勉強嫌いじゃないけど、飽きた。

一話 助手依頼

束さんとの出会いから数年。私は普通に過ぎていた。もちろん、篠ちゃんの家にも遊びに行つたりもしていた。その度束さんも出迎えてくれた。

そしてその時が来てしまった。

宇宙空間での活動を想定されたマルチフォームスーツ・・・

『インフィニット・ストラトス』・・・通称『IS』だ。

最初は注目されなかつたけど、（束さんは学生だったため注目された）その後に起きてしまった

『白騎士事件』で一躍注目されるよつになつた・・・兵器として。

しかもISは「女性にしか扱えない」から各国で女尊男卑が進んでしまつた。

あれから数ヶ月、私はいつもどおり暮らしていくけれど・・・

「祐希ー。電話よ。」

一階から母さんの呼ぶ声がした。私は読みかけの本を置いて部屋から出た。

誰から?

「それがねえ、分からぬのよ。ただ、『祐希ちゃんいりますか』ってしか。」

「誰だろ?」と思つた。私に電話をかけてくるのは篠ちやんか一夏く
んしかかけてこないから。

「もしもし？」

「…もしもし、ひねもす？」

．．．ああ、あの人しかいないと思った。電話をかけたらいつものセリフ、これは．．．

「束さん？」

「はあーい。みんなのアイドルつ、篠ノ之束さんだよーつーつー！」

「Jのタイミングでつ！？まあいつか。取り敢えず・・・

「何か要件があるんですか?」

「うんうん、ありあり、超アリなんだよーっ！—取り敢えず家の前に立つから出てきて出てきてーーー！」

「それと。今日は泊り込みで来てくれるかなあ？いいかなあ？」

「ダメだ、これは「必ず泊まつてね！」って言つていのよつこしか聞こえない。」

「はあ、分かりました。少し待つてください。準備しますから。」

「うふうん、東さんは律儀な子は大好きだよ？」

なぜ躊躇形？と思いつつ詰器を置いた。

「母さん、友達の家に泊まりに行つてもいい？」

泊まるなら申し出をす。これ小学生の鉄則。

「いいわよ。迷惑かけないよつこね。」

「す」あつせりだ。こんなところがいいのかもしねない。

「分かつた。行つてきます。」

私は準備をして、家をでた。すると田の前に東さん。

「きたきた、じゃあ行こつか！」

言われるまま私はついて行つた。

數十分後、ある建物の前に到着。ここは . . . ?

「ここはねー、私がEDを開発した場所、『倉持技研』だよつ！」

「こじが工事を開発した場所かあ……って私が来る場所じゃないよね。」

「私がゆーちゃんを呼んだのは、私の助手になつて欲しいからなのだつ！」

「うん、よく聞こえなかつた。」

「……え？」

「だから、私の助手になつてほしいのだつ！」

「うわー、こきなりだよ、いきなり。」

「なんで私なの？」

「頭がいいからだよ？」

「疑問形返しは止めましょ。」

「だつてゆーちゃん、全国模試いたグフツ！？」

「言わなくていいでしょ！……こんなとこでハーハー？」

「（…………）ふはつ。ゆーちゃんひびに。ちーちゃん
顔負けのアイアンクローバー……ビリード綴つたの？」

「千冬さん本人。」

「こんなこともあらうかと私は留つておいていたっしー。これから先も使
ねつ、うん。

「取り敢えず入ろう、そうじようー。」

「はい。」

何か上手く乗せられたような気がするけど行こう。聞くことも沢山
あるし、なぜ私なのかも聞こう。そう考えながら足を進めた。

一話 助手依頼（後書き）

今回は特に引用しなかつたと思つ。
次回はシートさんの作品で出てくる人が登場するかもしれない。
倉持技研＝でわかると思います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6679y/>

IS fusion

2011年11月23日12時48分発行